

動物用医薬品

くみあい

アンピシリン散

抗生物質製剤

特長

- グラム陽性菌およびグラム陰性菌など広範囲な細菌にすぐれた抗菌作用を示します。
- 耐酸性で、経口投与によりよく吸収され、速やかに有効な血中濃度が得られます。
- 胆汁中へ高濃度に排泄されますので、上部消化管感染症に効果を示します。
- 本剤は水溶性の散剤ですので、人工乳、飲水添加による投与も可能です。

アンピシリン散

成分及び分量

本品1g中 主剤 日局 アンピシリン水和物 100mg(力価)

包装:1kg(アルミ袋)

効能又は効果

有効菌種 本剤感性 大腸菌、サルモネラ

適応症 子牛:細菌性下痢症

豚 :細菌性下痢症

鶏 :大腸菌症

用法及び用量

1日1回体重1kg当たりアンピシリンとして下記の量を強制的に投与するか、

又は飲水に均一に溶かし、若しくは飼料に均一に混じて経口投与する。

牛(生後6月を超えるものを除く.):4~12mg(力価)「くみあいアンピシリン散として40~120mg」

豚 :4~12mg(力価)「くみあいアンピシリン散として40~120mg」

鶏 :20mg (力価)「くみあいアンピシリン散として200mg」

ただし、重症例には上記量を1日2回又は上記量の倍量まで増量する。



使用上の注意

【一般的注意】

- (1)本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- (2)本剤は効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。なお、ペニシリンーゼ産生菌には通常奏効しないので、この場合は他の薬剤を使用すること。
- (3)本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (4)本剤の使用に当たっては、治療上必要な最小限の期間の投与に止めることとし、週余にわたる連続投与は行わないこと。
- (5)本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意: 本剤は、薬事法第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物〔牛(生後6月を超えるものを除く。)、豚、鶏〕について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守して下さい。

牛(生後6月を超えるものを除く.):食用に供するためにと殺する前5日間

豚 :食用に供するためにと殺する前5日間

鶏 :食用に供するためにと殺する前2日間

【使用者に対する注意】

- (1)誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- (2)飼料等に混合する際は、マスク等を着用し、粉じん等を吸い込まないように注意すること。
- (3)作業時には、防護メガネ、マスク、手袋等の防護具を着用し、眼、鼻、口等に入らないよう注意すること。
- (4)アレルギー体質等で刺激を感じた時は、直ちに取扱いを中止すること。

【対象動物に対する注意】

1 制限事項

- (1)本剤は生後6か月を超える牛には投与しないこと。

2 副作用

- (1)副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- (2)本剤の使用により、ショック症状やアレルギー症状を起こすことがあるので、投与前に使用経歴や反応の有無を調べ、陽性動物には投与を避けるようにすること。

【取扱い上の注意】

- (1)本剤は有効期間内に使用すること。
- (2)本剤は水により分解が促進されるので人工乳、飲水等に溶解した場合はなるべく早く投与すること。
- (3)使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (4)本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

【保管上の注意】

- (1)小児の手の届かないところに保管すること。
- (2)本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。

製造販売元

株式会社 科学飼料研究所

〒104-0045東京都中央区築地1-12-6

<http://www.kashiken.co.jp/>

動薬部 TEL:027-347-3223 FAX:027-347-4577

札幌事業所 TEL:011-214-3656

東北事業所 TEL:019-637-6050 北九州事業所 TEL:096-294-8322

関東事業所 TEL:043-486-5640 南九州事業所 TEL:099-482-3044